

重源上人を支えた武将しのぶ

東大寺と徳島・吉祥院 初の合同法要

東大寺（奈良市）の鎌倉復興に
尽くした俊乗房重源上人を支えた
という阿波（徳島県）の武将、阿
波民部大夫・田口成良の追善法要
が8日、同寺俊乗堂で初めて営ま
れた。同寺と成良ゆかりの徳島県
神山町にある吉祥院（真言宗御室



重源上人坐像の前で田
口成良をしのび合同法
要を営む僧侶ら＝奈良
市の東大寺俊乗堂

派）の合同法要で、奈良と徳島の
友好の機会ともする。

田口成良は平安時代末期の武
將。東大寺が焼けた南都焼き打ち
を行った平家軍に加わったが、平
家物語では壇ノ浦の戦いで源氏側
についたと伝えられるなど、生涯
は謎に包まれている。

吉祥院によると、成良は勸進職
として大仏殿再建に尽力した重源
と縁があり活動を支えたとされ
る。成良が阿波に建立した浄土堂
と安置した仏像を重源が東大寺に
移し、成良を供養したという故事
も残ることから吉祥院が東大寺に
相談し、合同法要が実現した。

この日は、東大寺の橋村公英別
当と吉祥院の新居道戒住職ら両寺
の僧侶が重源上人坐像（国宝）の
前で読経し、成良を供養すると
もに重源の遺徳をしのんだ。その
後、平家琵琶の奉納演奏もあっ
た。

新居住職は「成良は平家物語の
イメージがあるが、重源上人が供
養したと伝わり、悲劇の武将の本
来の姿を知っていただきたい」と
話した。